

やながわたけのうえ  
柳川竹ノ上遺跡

秦野市 No.141 遺跡



1.柳川竹ノ上遺跡空中写真



2. J13号住居調査状況



3.遺物注記作業状況



4. 遺物復元状況

● 主な調査成果

2022年12月から整理作業を行っています。遺跡は神奈川県西部の丹沢山地の鍋割山から南に派生する丘陵尾根上の緩斜面で、標高は226～270mです。縄文時代では、標高の高い位置に早期の土器が集中して発見され、低い位置に中期の土器や竪穴住居跡が集中していました。弥生時代では前期末～中期初頭の土器が出土していることが注目されます。奈良・平安時代の竪穴住居跡は15軒発見されました。全ての住居跡は尾根を横切るように東西に延びる溝の南側に位置しています。重複しているものではなく、少数の住居が細々と営まれていたようです。遺跡は斜面地のため、地すべりや地割れの影響を受けており、遺構の上下が分断された状態のものも多く検出されています。今まで調査の少ない地域でしたが、今後の近隣の調査事例と合わせて地域の歴史を明らかにしていきます。

- 調査期間 2015年10月1日～2017年2月28日  
2022年7月1日～2021年5月31日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 所在地 秦野市柳川
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅から北西約4kmの丘陵尾根上の緩斜面

